

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	海津市立大江小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	木曾三川子ども狂言「失せうろこ」治水史跡と清流魚の保全

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1. 活動に至る経緯

本校は木曾川、長良川、揖斐川という木曾三川の下流域に位置し、校区内には木曾三川公園、千本松原、治水神社などの教育効果のある施設や文化財がある。木曾三川は地域にとって、過去から現在、そして未来につながって、人々の生活や産業に大きな影響を与える重要な河川である。そんな木曾三川を教材に、学校として特色のある教育活動を展開できないかという教職員や地域の願いをもとに構想されたのが、木曾三川を題材にした創作狂言「失せうろこ」の活動である。

この子ども狂言「失せうろこ」は劇作家であるやまかわさとみ先生が脚本を書いたものである。そして、狂言を演じるにあたっては、日本を代表する狂言師である佐藤友彦先生をはじめとした狂言師や能管や鼓の演奏家のご指導を受けている。そうして、始められた狂言活動は先輩たちから受け継がれて、年々、アレンジを加えられながらも本校の特色ある教育活動として、また、伝統として継承されてきた。

本校では、各学年でふるさとの教材を取り上げた教育活動に力を入れているが、5・6年生では地域の河川への関わり方を学ぶことを通して、治水対策など効果的な防災教育を実施するとともに、河川の生態の学びを通して、環境保全など環境教育としての側面も重要視している。木曾三川下流域に住む住民として、防災と環境保全という2つの側面から、今後の望ましい河川とのかかわり方を考え続け、現在および未来に対して、よりよい地域社会の創り手を育成したいという願いのもとに、児童の学びをデザインしている。

木曾三川の宝暦治水の史跡や千本松原など先人の努力や工夫を学び、治水という防災への意識を高めると同時に、アマゴ（サツキマス）・アユ・イワナなどの清流魚の生息環境の実情を学ぶことで環境保全への意識の向上および郷土愛や社会参画に対する意識の涵養を図りたい。

#### 2. 活動・研究の目的(ねらい)

- ・治水神社で行われる春の例大祭で狂言を披露することで、過去の水害と薩摩義士による治水工事の関わりを思い起こすと同時に治水への意識を向上する。
- ・作家から「失せうろこ」の制作秘話と各役柄の特徴と価値を学ぶ。狂言のそれぞれの役の台詞に清流の汚濁への訴えや美しい川を臨む願いが込められていることに気付く。
- ・狂言師・能楽師囃子方からユネスコ無形文化遺産の技能を学び、表現力を磨く。
- ・木曾三川の治水や環境保全の学びを通して、自分たちの中に芽生えた願いを誰に伝えたいのかを明らかにしたり、子ども狂言「失せうろこ」の演技に反映させるために、どうすればよいのかを考えたりしながら、練習をする。
- ・狂言の活動を通して、自分自身の成長や地域への貢献について振り返る。

#### 3. 活動内容

学習活動名：治水神社例大祭での狂言発表

日付：令和5年4月25日（火）

見られた子どもの姿

久しぶりに開催された治水神社例大祭において市から依頼されて狂言を発表した。宝暦治水における木曾三川の治水工事によって犠牲となった薩摩義士を偲ぶとともに、現在の生活が安全に送れるのも先人たちの努力のお陰であることに対して感謝の気持ちをもつことができた。また、清流である木曾三川の環境保全を発信しようと堂々と自分の役割を演じることができた。



学習活動名：指導者による狂言指導

日付：令和5年10月10日（火）

見られた子どもの姿

子ども狂言「うせうろこ」を創作した劇作家やまかわさとみ先生と狂言師佐藤友彦先生による狂言指導を受けた。台詞の言い回しや立ち振る舞いなど専門的な指導を受けることにより、より表現力に磨きがかかった。また、地域の伝統文化である立野萬歳についても地域のボランティア講師の指導を受け、声や動きをそろえて演じられるようになった。



学習活動名：名古屋城秋まつりでの狂言発表

日付：令和5年11月3日（祝・金）

見られた子どもの姿

名古屋城の秋まつりにおいて、特設ステージにて狂言を発表した。海津市の自然や文化のよさを発信しようと、多くの観客の中で緊張感やプレッシャーを感じながらも、精いっぱい自分の役割を果たすことができた。岐阜県の県議会議員や海津市おもてなし隊長からも称賛の言葉をいただき、より一層の自信を深めるとともに、地域のために貢献できたという意識をもつことができた。



学習活動名：授業参観（ふれあい参観）における狂言活動の発表

日付：令和5年11月11日（土）

見られた子どもの姿

ふれあい参観という授業参観において、全校児童、保護者、地域住民に狂言活動を発表した。これまでの活動を振り返り、作品にこめられた願いや思いを語り、1年間の狂言活動の集大成として、それぞれに役を演じたり、演奏をしたりした。たくさんの観衆に見守られ、緊張しながらも精いっぱい発表をすることができた。



学習活動名：指導者の思いを知り、感謝を伝える会

日付：令和5年12月12日（火）

見られた子ども姿

4月以降、狂言活動の指導でお世話になった専門の指導者や地域ボランティアの方を招いて、「台詞の言い回しや立ち振る舞いを手取り足取り教えてもらい、自信をもって演じることができるようになったこと」「はじめは上手く音が出せなかった能管や鼓も丁寧に教えてもらうことで、よい音が出せるようになった」など、一人一人の感謝の思いを伝えることができた。また、実際にプロの狂言師による演技を間近に見せてもらえる機会を得て、本物の伝統芸能の迫力や美しさ等に触れることができた。さらなる高みを目指し、日々努力をし続けることの値打ちを感じることもできた。



#### 4. 子どもたちへの効果(成果・課題)

- ・身近な木曾三川に対して、先人たちの治水への努力や工夫に感謝す気持ちと清流木曾三川の環境を保全していきたいという意識が育まれた。
- ・狂言師や能楽師囃子方から専門的な指導を受けることにより、大勢の観客や大きな舞台でも自信をもって堂々と自らの役割を果たし、表現する力が付いた。
- ・治水神社例大祭や名古屋城秋まつりでの狂言発表を通して、海津市のために自分たちにできる貢献をしているという社会参画の意識が醸成された。
- ・身近な木曾三川について、先人たちの治水の努力や工夫を学び、防災への意識が高まるとともに、さまざまな生物が生息する清流を守ろうという環境保全の意識が高揚した。
- ・狂言指導を通して、自信をもって自己を表現しようとする意識が高まった。
- ・子どもたちが身近な木曾三川について直に観察したり、調査や実験をしたりしてつかんだ課題を基にして、情報を集めたり、整理したりして課題を探究したことを発信する際に狂言によって表現するなどの探究的な学びのサイクルを展開していきたい。
- ・先人たちの木曾三川の治水の苦労や工夫、清流木曾三川の環境保全に対する発信についても力を注ぐような展開の工夫をしていきたい。